

電波資源拡大のための研究開発・平成25年度追跡評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント
コグニティブ無線通信技術の研究開発	H17-H19	<ul style="list-style-type: none"> ・WiMAXサービスの普及に寄与した。スマートWi-Fi/3G切替などスマートフォンで普及している。 ・実用化、事業化については実施中となっており、ここまでこぎつけたのは総合的に見て有益な成果を上げられたことの証と考える。 ・直接的な波及効果は少ないが、その後のセルラへのオフロードという意味では大きな影響を与えた。
コグニティブ無線端末機の実現に向けた要素技術	H17-H19	<ul style="list-style-type: none"> ・コグニティブ無線機の開発においては、東日本大震災においてコグニティブルータが活躍する等の成果を上げている。IEEE1900.4の技術規格化に成果を上げた。 ・プロトコルのソフト資産として極めて大きな成果を得ており、ビジネス展開を図るベースが出来たことで極めて高く評価できる。 ・標準化に貢献したが、産業的な貢献が少ない。国内産業育成の観点が必要である。
空間軸上周波数有効利用技術の研究開発	H17-H19	<ul style="list-style-type: none"> ・SDMの実用化へマルチユーザーマイモの実用化に寄与した等の成果をあげている。 ・シングルユーザMIMOからマルチユーザMIMOへの飛躍を支える技術的貢献は大である。学術的にも実証実験によるインパクトは大である。 ・技術的には大きな波及効果があったと認められる。
超伝導フィルタ技術の研究開発	H17-H19	<ul style="list-style-type: none"> ・超伝導フロントエンドの開発、25W送信フィルタの確認など成果を上げた。超伝導フィルタとして広く用いられるのは難しかったが、気象用レーダー等に用いられる等の成果をあげた。 ・技術開発とノウハウの蓄積という意味においては有益な研究開発であったと評価される。 ・基礎技術としては十分なレベルに達している。
高速・高精度測定技術の研究開発	H17-H19	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の測定技術のレベルアップや測定器開発の意義から大いに有効であったと判断される。なお、事業化に当たっては低コスト化を図って頂きたい。 ・測定方法の簡易化、高制度化を国内メーカー主導で行った意義は大きい。 ・長期的にみて、こうした基盤的技術の蓄積は不可欠であり、その意味では有益であったと言えるであろう。